2023年度スローガン
おとなも育とう、
こどもと共に
～つながる想い
新しい時代へ～

PTAよこはま

第173号

横浜市Ｐ連ＨＰの
２次元コード

発行日／2024(令和６年)年２月15日　発行者／横浜市ＰＴＡ連絡協議会　横浜市西区花咲町6−145 横浜花咲ビル3階　編集／2023年度 常置広報委員会

横浜市Ｐ連が主催する行事の中では比較的新しい三行詩コンクールも、今年で第15回を迎えました。応募総数は昨年の2倍以上、１７４３点を数え、その中から市Ｐ連常置委員及び役員と横浜市教育委員会国語科指導主事の審査により、35点の優秀作品が選ばれました。

２０２３年12月17日、横浜市教育会館にて入選者の表彰式が行われました。

三行詩とは、俳句や短歌のように決まった形がありません。テーマに沿った気持ちや出来事を、三行程度の短い文章に載せるものです。今年のテーマは「命の大切さ」「みらい」「家族のきずな」…どれも口で言うには照れくさくて、普段から語るのは難しい内容ですが、文字にして伝えると、ほほえましく温かい気持ちになります。毎日の何気ないやり取りや、ふと感じる家族への想い、将来への希望や期待など身近に起きる様々なことが、三行詩となって多くの人々の心に残るものとなりました。

受賞者の中には、昨年も入賞された方やごきょうだいで入賞された方々もいらっしゃいました。「(受賞者は)小さい子が多い中で、自分のようなむさくるしい者が…」と謙遜される受賞者の言葉には、会場から笑いも起きました。受賞者の皆さん、「まさか自分の作品が入賞するとは…」と驚いていらっしゃるようでしたが、それぞれの視点からそれぞれの言葉で綴られた作品は、どれも「いいな、素敵だな」と思わせるものばかりでした。舞台上で表彰されるお子さんに、笑顔で拍手を送る親御さんの姿もまた、心温まるワンシーンとなりました。

難しい知識や技術は必要ありません。あなたの身の回りにも何か、三行で伝えたい気持ちや出来事が、きっとあると思います。来夏募集予定の三行詩コンクール、引き続き多くの方々からのご応募をお待ちしています。

横浜市ＰＴＡ連絡協議会のホームページでは、佳作を含む全受賞作品を掲載しておりますので、是非ご覧になって下さい。

教育長賞

会長賞

第15回 横浜市P連 三行詩コンクール

テーマ
命の大切さ
みらい
家族のきずな

「パパ、ママ、がっこういってきます！」
いつものあいさつ、たいせつに
あたりまえを、たいせつに
二谷小学校　１年　芝山桜子
お仕事で中国にいるパパに
この詩を書きました。

「小さいままでいて」って言ったり、
「はやく大きくなって」って言ったり、
ほんとママはかってだなぁ。
蒔田小学校　３年　原杏奈
自信なかったので
賞をもらえてうれしいです。

10歳下の弟は
私の1歩を10歩で歩く
1歩の大きさは違うけれど
どちらも前へ向かう大きな1歩
東品濃小学校　５年　つのぴおにぎり
家族皆にうれしい気持ちを伝えたいです。

家族とは
フォロワーであり
推しである
東高等学校　２年　ほいころー
僕の精一杯の気持ちを込めました。

横浜市教育委員会
教育長賞

「明日やる」
いつになったら来る明日
信じて待つのみ息子のスイッチ
秋葉小学校　一般　ぺこ
子どもから「何かやろう！」
ということが大切なので、
そのスイッチが入る時を辛
抱強く待っていようという
気持ちです。

横浜市Ｐ連 会長賞

いつもなかよしパパとママ
しゃしんのけっこんしき
生まれてないけど　いきたかったな
希望ケ丘小学校　１年　藍ちゃん

たいせつなもの　それはいのち
トクトクトク　ドクンドクンドクン
いのちのおとをきいてみよう
神大寺小学校　１年　はなみちゃん

妹がうまれたよ
うれしいようなさびしいような
それでもぎゅっとしたくなるんだ
東中田小学校　２年　倉田優正

今日は、パパのたん生日
まくらもとに、プレゼントをおいたよ。
今日は、わたしがサンタクロース
瀬谷さくら小学校　３年　鈴木うた

体調くずした
ママのため
手伝うわたしは小さいママ
瀬谷さくら小学校　３年　遠藤星菜

「右左、前後ろ、ちゃんと見てね」と
ママは言う。
だいじょうぶ!!
しっかり持って帰るね、私の命。
八景小学校　４年　髙橋柚歩

今日からケーキは七等分
食べるの少なくなるけど
家族がふえるってしあわせ
東中田小学校　５年　遠山空

目がさめると、
となりでまだねている弟
安心してもういちどねるわたし、
心もポカポカいいきもち。
境木小学校　５年　山下實千佳

「おなかすいた」
「ただいま」のかわりの照れかくし
でも本当はもっと
会話がしたいんだよ
伊勢山小学校　６年　菅原絢

悲しい日うれしい日いろんな日に
同じドアを開ける
そのたびに同じ暖かい声で「おかえり」
うん　ただいま
市ケ尾中学校　１年　Ｈａｙａ

話してみたくて一生懸命、指を動かす。
指や手があなたの想いを伝えてくれる。
手話って素敵な言葉だね。
上菅田特別支援学校高等部
１年　黒野小春

「靴下ぬぎっぱー」
そういう母も「電気つけっぱ！」
同じ血通ってしょうがない
桜丘高等学校　２年　不遊田

私を怒らせるのも君
私を困らせるのも君
でも、私を幸せな気分にするのも
君なんだ
善部小学校　一般　日和見母

3本足で今日も出勤
白杖はリズムを刻むメトロノーム
ともに生きる社会を目指して
東汲沢小学校　一般　はまペン

あの日ママが倒れた
突然家からいなくなった
「ただいま」「おかえり」いつもの会話
幸せで涙が止まらない
浦島丘中学校　一般　みんなのママ

横浜市Ｐ連 奨励賞

白幡小学校　２年　加藤偉月
大鳥小学校　２年　大保光雅
桜岡小学校　２年　田中菜柚姫
緑小学校　４年　アミーゴ
谷本小学校　４年　竹内結理
東中田小学校　４年　国井汐夏
いぶき野小学校　５年　バレリーナ
田奈小学校　６年　檜垣和成
南山田小学校　６年　大洞尊
中川中学校　２年　大洞歌緒
日吉台中学校　３年　しずえもん
二つ橋高等特別支援学校　１年　櫻井琉生
緑小学校　一般　すぎ
小机小学校　一般　野菜大好きママ
六角橋中学校　一般　ふみっぺ

受賞おめでとうございます。たくさんのご応募ありがとうございました。

入賞作品は表彰式で表彰させていただくとともに、市Ｐ連ホームページおよび「ＰＴＡよこはま」に掲載させていただきます。

来年度もたくさんのご応募をお待ちしています。

杉田小学校 ●磯子区●
150周年のその先へ・・・繋ぐバトン

11月11日（土）杉田小学校体育館にて創立150周年記念式典が行われました。

子どもも大人も喜べるよう、二部制での開催とし、午前中は、子どもたちのお祝いの会。学年ごとのお祝いメッセージ動画を見て歌を披露、途中には職員のサプライズ合唱もあり、最後は杉田小の金管バンドが校歌を演奏し、みんなで歌いました。午後は第二部として、地域の方や元職員の皆さん、来賓の方をお招きし、祝賀コンサートも追加した大人向けプログラムとしてとりおこないました。

ただ、ここに至るまでは大変な道のりで、式典等を企画実行するPTA創立150周年記念委員会が立ち上がったのは、なんと今年度の４月。コロナでどうなるかわからない中、やる必要があるのかという意見もありました。しかし、150周年の先の未来へバトンを繋いでいこう、という決断をし、記念委員会を立ち上げたそうです。

式典以外には、８月に150周年記念夏祭りを開催。お菓子釣りなどのアトラクションやフォトブースも作り、子どもたちも大勢集まりました。さらに寄贈品として、スタンドポーチを作成。他にも記念誌やクリアファイル、また、会長デザインのタオルなども配付。また、周年行事の中には地域との取り組みも。磯子区民文化施設である杉田劇場でおこなった、一週間の展示です。内容は、子どもたちの様子をドローンで撮影した動画上映、昔の写真や思い出の展示など。これをすべて半年程度で企画実行したということで、本当に頭が下がる思いでした。

子どもたちの取り組みとしては、昨年度から『150歳のお誕生日をみんなでお祝いしよう』という合言葉を掲げ、総合的な学習の時間の中で杉田について学習。校内に掲示された横断幕は、今の中学１年生がデザインしたもの。今年はもう卒業しているけれど、一緒にお祝いできるように、とのことです。他にも、１・２年生が紙パックでバースデーケーキを作ったり、10月の運動会を150周年記念プログラムとしたりしました。

今回取材を終えて感じたのは、杉田小のみなさんの感謝の気持ちです。

みなさんのお話からは、希望を実現してくれた周年行事実行委員のかたたちに対しての感謝や、いつも支えられている地域の方への感謝、お互いに対するねぎらいがありました。そんな皆さまに支えられ見守られている杉田小の子どもたちもまた、150周年に対する感謝の気持ち、次の周年へ繋げるバトンをしっかりと手にしているのではないでしょうか。

『杉田がすきだ』杉田っ子の作る地域キャラクター『ウメニー』

150周年記念デザインのウメニーのスタンドポーチ

石川小学校 ●南区●
自ら考え、行動し、150年のバトンをつなぐ「石川魂」！

もりくろう＆みらくるくん

1873年４月27日に開校

幾度か名前と立地を変え、1928年に現在地へ移転、1947年に石川小学校の名称になりました。

４代続けて同校に通う在学生は、10世帯以上いるそうです。

４月26日　150周年子ども式典

創立150周年記念事業のオープニングとして開催されました。**お祝いシンボルとなるマスコットキャラクターの「もりくろう」**（自然、森と時計（クロック））と**「みらくるん」**（未来と過去が150周年に立ち会える奇跡（ミラクル））がお披露目されました。このマスコットキャラクターは、昨年度の全校児童から石川小学校のイメージを集約し、児童実行委員が考案し、前PTA会長で創立150周年記念事業実行委員長の髙田様が仕上げられました。

くす玉や大きなケーキもお披露目されました。**「創立記念日は学校の誕生日だ！」**と、バースデーケーキの案が子どもたちから出され、学年ごとに分担して作り上げました。

５月27日　創立150周年記念運動会

マスコットキャラクターが背中にプリントされた青いTシャツを全児童が着用しました。この後、様々なグッズ（マグカップ、タオル、ピンバッジ、トートバッグ）も作られ、保護者や地域の方にご購入いただき、創立記念事業の費用の一助となりました。

11月18日　創立150周年記念式典

横浜武道館で行われ、児童と保護者、地域の方も参加しました。児童が学習成果を発表し、同校の学校教育目標の**「石川魂」**を体現しました。**「石川魂」とは、「最後まで粘り強く頑張る子（知、体）」「自分や友達の思いを大切に　協働する子（徳）」「自分たちのまちを愛する子（公、開）」**を表しています。

寺園校長による今後の展望

「子どもたちが自分たちで活動を作り上げる喜びを味わっていける、そんな学校を目指していきたいです。横浜市の教育の中に社会情動的コンピテンシーという言葉があります。非認知能力なのですが、学力以外の力や、やる気とか、そういう力を行事を通して育むことで、学習にも活かせるようにしていきたいです。子どもたちが自分ごとして創造してつくり上げる、そのような学校でありたいです。そして保護者や地域の方とも共に歩んでいきたいです。」

全校児童の思いが詰まった特大ケーキとくす玉

日吉台小学校 ●港北区●
みんなの絵でまちをかざる『バスラッピング』

いちばんの目玉はみんなの絵でまちをかざる「バスラッピング」&「プランターデコレーション」。児童全員が「日吉のすきなところ」を描き、その絵で街を走るバスをラッピングしました。車体は４～６年生の絵。１～３年生の絵は車内および駅前の花壇や学校周辺の商店街のプランター（約40個）にデコレーションされ、日吉のまちを華やかに彩りました。令和５年７月から令和５年12月まで。偶然出会えたら、幸せになるバス！？と言われています。

学校の花壇とビオトープが２年かけて整備されました。保護者花ボランティアの皆様の多大なお力添えもありました。また、何年も手付かずだった井戸が復活。飼育栽培委員会の児童が井戸の水を汲んで、花壇に水やりをしています。なお、この井戸は「災害用井戸」に登録されています（非飲用）。

イメージキャラクター「ぶんかちゃん」が誕生しました。全校で取り組みをした結果、当時の６年生児童作で、校歌にも登場する「文化の鐘」をモチーフとした可愛らしいゆるキャラが選ばれました。着ぐるみにもなり、子どもたちの人気者です。

今も大切にされている「文化の鐘」には、素敵な木製のお家ができました。10種類の木材を使用した「鐘台」。日吉台小の前身である寺子屋をイメージしたデザインです。記念を刻印した銅板も付いています。

『お披露目の日には、行先表示に東急「のるるん」と日吉台小「ぶんかちゃん」が登場

６月23日には、バルーンリリースでお祝いしました。600個の風船が一斉に大空へ舞うと、拍手や歓声があがりました。風船の中には「コスモスの種」を入れました。風船を拾ってくださった方から続々とメールが届きました。児童の風船は、茨城県や千葉県にも旅をしていたようです。

そのほかにも、プロ顔負けにイラストの上手な卒業生保護者のデザインによる「150周年記念オリジナルTシャツ」の作成（希望者に受注販売）。11月に行われた児童の実行委員による「150才を祝う会」には、令和５年度夏の全国高校野球大会優勝校でおなじみの日吉に校舎を構える慶應高校の野球部森林貴彦監督がサプライズ登場。「大きな目標を持つこと」「目標の為に一歩一歩積み重ねていくこと」の大切さをお話ししてくださいました。

約２年前に保護者や卒業生保護者、地域の方、先生方による150周年記念事業実行委員会ができました。ここに書ききれないほどたくさんの事業は、日頃から児童、先生、地域、保護者のコミュニケーションが取れているから、実行できたのだろうな、と取材から感じました。150周年おめでとうございました。

車体左右と後ろに４～６年生の絵をラッピング

義務教育制度に関連する歴史

- **1872 学制発布**・教育年限を８年としたが、強制力は弱かった
- **1871**・太政官布告により文部省設置（初代文部卿、大木喬任）・東京に直轄の師範学校設立
- **1875**・文部省布達により、満６歳から満14歳までの８年間を学齢と定められる
- **1879 教育令**・教育年限は８年だが、最短16ヶ月通学でよいと規定
- **1880 改正教育令**・教育年限は８年だが、最短３年その後毎年16週以上通学させることと規定
- **1880**・各府県に師範学校設置義務化
- **1885**・内閣制度創設（初代文部大臣、森有礼）
- **1886 小学校令**・義務教育３～４年と規定（義務教育の文言が初めて登場するも、地方における規定なし）
- **1889** 横浜市誕生
- **1890 第２次小学校令**・義務教育３～４年と規定。家庭学習でも就学義務が果たされるとの規定登場
- **1900 第３次小学校令**・義務教育４年と規定・授業料無償化
- **1905**・就学率95％を超える
- **1907 第５次小学校令**・義務教育６年と規定
- **1941 国民学校令**・義務教育８年と規定・家庭学習で就学義務が果たされるとの規定はなくなる
- **1948**・教育委員会制度を創設
- **1952** 日本PTA発足
- **1959** 横浜港開港100周年
- **1963** PTAよこはま第１号発刊
- **1947 教育基本法／学校教育法**・義務教育９年（小学校６年、中学校３年）と規定
- **1992**・学校週五日制の段階的導入（H４～：月１回、H７～：月２回、H14～：完全）
- **2004**・学校運営協議会の制度化
- **2009** 横浜港開港150周年

明治　大正　昭和　平成　令和

祝 創立150周年！

山内小学校児童制作のケアリーフのモザイクアート

日本の近代教育制度は明治５年に公布された学制によって創設され、その翌年に設立された小学校が令和５年度に創立150周年を迎えました。そんな歴史ある小学校が横浜市内にはなんと22校もあります。

今回はそのうちの６校を訪問し、学校の歴史や周年行事、学校自慢を取材しました。

150周年校一覧

鶴見	市場小	神奈川	青木小	磯子	根岸小
鶴見	潮田小	中	元街小	磯子	磯子小
鶴見	末吉小	旭	市沢小	金沢	富岡小
戸塚	戸塚小	青葉	鉄小	金沢	金沢小
港北	大綱小	青葉	山内小	金沢	釜利谷小
港北	日吉台小	青葉	田奈小	金沢	六浦小
南	太田小	青葉	谷本小		
南	石川小	磯子	杉田小		

鉄小学校 ●青葉区●
まちにふれ、土に親しみ、人から学ぶ ～地域と歩む学校～

明治６年４月1日地域の方の宅地に開校した鉄（くろがね）小学校。地域が作ってくれた学校であるという思いのもと、地域と繋がり、様々な活動を行っています。

保護者、地域と連携し、土に親しみ人から学ぶ体験活動を充実させることを教育の柱として、毎年、稲作・野菜栽培・梨づくり体験を行っています。

・全校で行う稲作は地域の方の指導を受けながら30年続いている伝統行事で、令和３年度からは、神奈川のブランド米「はるみ」を栽培し、収穫したお米は11月~1月初旬まで自校炊飯で給食で提供されます。今年は270キロを収穫！ 11月23日には収穫祭も行いました。

その日は、地域の方に１、２年生には数珠玉作り、３、４年生には枝豆のくきを使った工芸、５、６年生には竹とんぼづくりを教えていただく時間を設けています。

・地域の畑名人と一緒に、夏野菜と冬野菜の栽培を行っています。取材時も立派な大根や白菜、キャベツが校庭の畑に育っていました。

・坂田さん（150周年実行委員長・元市Ｐ連会長）の畑では毎年梨づくり体験も行っています。

そんな鉄小学校の150周年キャラクターは“なしこめちゃん”。今年の150周年記念運動会はキャラクターにちなんでなし組・こめ組に分かれて実施し、とても盛り上がりました。

児童の委員会活動では、150周年記念の活動として、校内の樹木へ木々の名前を記したプレートの取り付けも行いました。

11月11日に行われた創立150周年記念式典では、卒業生や地域の方にもご参加いただき、校歌、ソーラン節、記念ソングの発表等が行われました。鉄小卒業生が代表を務める横浜都筑太鼓の皆さんの演奏が式典を盛り上げました。参列者への記念品として、記念誌・資料集「わたしたちのくろがね」、オリジナル手ぬぐいの他に、収穫されたお米も配付されました。

鉄小学校には親子４代で通っているご家庭もあるそうで、地域との深い繋がりを改めて感じることが出来ました。

150周年記念キャラクター『なしこめちゃん』

今年収穫した新米。粒が揃って美味しそう！！

青々とした葉が、しっかり育っていました

樹木調査をしてプレートを作成しました

市沢小学校 ●旭区●
いつでも帰りたくなる学校
地域・学校・子どもたちの繋がりが実を結んだ記念式典

【150周年行事に向けた子どもたちの取り組み】

式典では高学年が主体となって行いました。オープニングセレモニーでは６年生が演奏し、地域の方がどのように関わったのか説明も行いました。５年生は150年の歩みを地域の方から伺って、クイズを交えて工夫して発表しました。

また、春の運動会では150周年を祝うことを考えながら団体競技を工夫し、その時の看板を当日の式典でも利用しました。

【子どもたちが150周年という長い歴史を感じることができる】

150周年というのは、なかなか想像がつかない、想像をはるかに超えた歴史があります。それを子どもたちは、特に記念の年ということで、自分たちも一員であるということを誇りに思ってくれていると思います。

【地域とのかかわりが深い】

地域の方中心に実行委員会を組織して「記念誌部会」「式典部会」「記念事業部会」などに分かれて準備を進めてきました。記念誌では、前半は地域の方の編集、後半は子どもたちのページで教職員と子どもたちが学年ごとに考えながら作りました。市沢小は、とにかく地域とのかかわりが深いです。「市沢わくわくおはなし広場」が読み聞かせをしてくださったり、「学援隊」が登下校の見守りをしてくださったり、「社会福祉協議会」が音楽鑑賞会を開いてくださったり、「おやじの会」がイベントを企画・運営してくださったり等つながりの深さが大きいですね。

【200周年に向けて】

今の子どもたちが支える存在になっていると思います。全員じゃなくてもそういう思いを持っている大人になってくれたら嬉しいですね。今、こんなに街の人たちが自分たちを支えてくれているということに気づいて、その中に自分も入って、お父さんやおじいちゃんになって200周年のときに学校の廊下で自分は150周年の時にここにいたんだよって言えたらいいですね。

（以上、江野澤校長へのインタビュー）

ケーブルテレビの取材に答えた６年生児童が「ぼくはたまたま（150周年という年に）学校に通っていて、たまたま６年生だった。それは偶然だけれどありがたいことで縁や人とのつながり、今その時にここに通うことができるということに対してそういう思いを持っている。これを機会に自分たちを支えてくれている人を改めて意識して自分たちも良い環境を作っていく、そういうふうになりたいと思える。そう感じる場面を多く持てているのは今年ならではだと思います」と話していたのが印象的でした。

「友情」の意味を持つ記念樹常緑ヤマボウシ

みんなの想いが込められている記念看板

六浦小学校 ●金沢区●
～花鳥風月～ 人間愛と笑顔あふれる六浦小学校

六浦藩の藩校として明治６年５月23日に開校した六浦小学校（当時は三分学舎）は、藩士であった佐藤忠蔵先生が初代の首席教員（現在の校長職）を務められ、第７代の首席教員であった平田恒吉先生が初代の校長となられた古き良き学校です。日露戦争や関東大震災のあった明治、大正期も脈々と地域に根ざした教育活動が続けられ、当時の生々しい体験談が「学校日誌」の形で今も大事に引き継がれています。

取材に伺った私たちも大正時代の学校沿革誌に関東大震災の発災した日の直筆記録があることに鳥肌が立つほど感動を覚えました。当時の六浦小学校の教職員が発災した９月１日に子どもたちの安否を確認するために学区域を駆け回ったという記録も残されていました。

横浜市歴史博物館の主任学芸員の方からも「明治初期の開校当時のできごとが鮮明に記録として残っている」この学校沿革誌はとても大切な文化財であるとお墨付きをいただいているとのことです。

また、写真の校名札は、六浦小学校の前身である「三分学校」時代の明治11年に県令（当時の県知事）直筆の書を校名扁額としたもので現物だそうです。

それでは、今年度の創立150周年を迎えるために、この３年間子どもたちが準備をしてきた取り組みの一部を紹介します。

令和２年には、現在中学３年生となっている当時の６年生が「150周年の年に繋ぐ」活動として校庭一角に陽だまり池を造り、百葉箱や学校園のせせらぎを再整備しています。

令和３年には、現在中学２年生となっている当時の６年生が「校庭の花壇や広場」をリニューアルし、飼育小屋にうさぎと触れ合えるラビットランを造成しています。

昨年、令和４年には、現在中学１年生となっている当時の６年生が、校内に地域の人も集うことのできる「憩いの広場」を造り、地域のお菓子屋さんの協力を受けて「150周年をお祝いするお菓子・フィナンシェ」の開発と販売を行っています。

そして150周年を迎えた今年の６年生は、卒業していった先輩たちの志を受け継ぎ、現在、「花鳥風月150」池と「六浦の環～150～」東屋を建設中です。

創立150周年記念式典は、地域の方々の大きな協力を得て、令和５年５月27日に盛大に挙行されたとのことです。

校長先生を中心とした教職員の方々と、PTA会長、役員、保護者の方々、そして地域の方々との愛あふれる連携も素晴らしく、横浜市全体に広めていただけると良い地域づくりのお手本になるかとも思います。

学芸員の方も驚くほどの記録

初代小学校の看板

校長先生とPTA会長さん

150周年記念誌
地域の方からのご支援で制作されました

再興第108回 院展
中学生以下入館無料

那波多目 功―《月の桜城》
ご優待割引券（2名様）
※本券1枚につき、会期中1回限り2名さまで下記ご優待価格でご入館いただけます。
一般：800円→600円
大学・高校生：600円→400円
2024年 3月30日（土）～4月21日（日）
開館時間：午前10時～午後8時
※入館は開館の30分前まで
そごう美術館 SOGO MUSEUM OF ART
【横浜駅東口　そごう横浜店6階】
✂きりとり✂

防犯に役立つ
神奈川新聞電子版
ご案内はこちらから
神奈川新聞社デジタル販売部
kanaloco-support@kanagawa-shimbun.jp

オンラインでもお申し込みいただけます!!
お申し込みはこちら

横浜市P連 子ども総合保障制度
当制度は、児童・生徒のケガや賠償事故等、日常生活中に想定される様々なリスクに対応した総合保障制度です。
●このご案内は、制度の概要を説明したものです。
特長その1 市P連の団体契約だから、約33%割引 ※当社における当該保険料の基準となる保険料に対しての割引表示となります。
特長その2 自転車事故などによる損害賠償責任を最高無制限（国内）で補償（2019年10月施行　神奈川県自転車条例対応）（示談交渉サービス付き）
特長その3 学校貸与の端末（タブレットなど）を誤って壊して、法律上の損害賠償責任が生じた時も補償
特長その4 SNS上での誹謗中傷、いじめ、ストーカーなど被害を受けた際、弁護士等への相談費用や、解決のための対策費用を補償
特長その5 扶養者の万一の際に育英費用を最高200万円補償　2024年度プランの内容です。
※プランによってセットされている補償内容や保険金額が異なります。詳しくは以下連絡先へお問い合わせください。
制度に関するお問合せ先　株式会社 ジーアンドケイ・アソシエイツ「子ども総合保障制度」係まで
TEL：0120-916-818（通話料無料）　受付時間：9：00～17：00（土、日、祝日、年末年始を除く）
引受保険会社：AIG損害保険株式会社　S-240421　（2025-01）

第67回 PTA 音楽交歓のつどい

11月20日（月）・21日（火）の2日間、港南区民文化センター「ひまわりの郷」にて開催されました。今年は、3年ぶりに実施された去年より参加団体が増え、31団体の皆さまが日頃の練習の成果を思う存分発揮されました。

「皆さまのように生き生きと輝くためには？」「それは、スポットライトを浴びるとよいのではないでしょうか。」これは、担当役員と参加された方とのやりとりです。このお話を聞いた会場の全員が共感されたのではないでしょうか。

曲調に合わせ表情豊かに美しいハーモニーを奏でる魅力的な姿、インタビュー時の素敵な笑顔、皆さま生き生きと輝いていました。

先輩が築き上げたものを受け継いでいくために努力されている団体。先生への感謝の念でいっぱいの団体。お揃いのブローチは団員手作りだと見せてくださった団体。この日のために、先生や仲間と共にコロナに負けず練習や様々な準備をされてきたことがよく分かりました。日々の積み重ねがスポットライトを浴びて美しく輝いたのでしょう。

そして、この素敵な場を支えてくださった役員や事業研修委員の方々も輝いていました。次はあなたが輝く番です。ぜひスポットライトを浴びてみませんか？

歌におもいをこめて

参加者にインタビュー

コロナ禍で、昨年より活動を再開されたさちが丘小の方。歌い終わった後に、涙ぐむ姿が印象的でしたので、感想をお聞きしたところ「久しぶりの音楽交歓のつどいに参加できて嬉しい。メンバーの顔を見ながら歌っていたら感極まってしまいました」とおっしゃっていました。透き通る歌声でとても癒されました。

矢向小学校では、今年から新メンバーが1名増え、男性メンバーの力強い歌声が、会場に響き渡り合唱にパワーを感じました。とても素敵な時間でした。

市P連研修会

Thinking 子育て ～社会での活躍に繋げるために～

森林が足りない

2023年12月4日、関内ホールにて2023年夏の甲子園優勝校の慶應義塾高校野球部監督兼幼稚舎教諭である森林貴彦先生の講演会が行われました。テーマは「Thinking子育て～社会での活躍に繋げるために～」。

子どもが社会の中で「生きる力」を身に付けるためのヒントを野球の試合に例えて話してくださいました。ここでは、厳選したテーマを5つご紹介します。

一回表 成長至上主義

個人の成長、チームの成長を第一に考えることが、スポーツにおいては最終的に勝利につながります。原動力は成長への意欲（＝向上心）。特に小学生は、ひとつのことに取り組めると、他のことにも良い影響を与えることがよくあります。まず本人が「これはがんばりたい」ということに打ち込めることが大切です。

一回裏 自分で考える

甲子園の決勝戦、仙台育英での勝利は、まさに選手自身がどうやったら勝てるかを考え、真剣に勝負した結果でした。選手には、「監督のために勝ちました」ではなく「自分で考えて工夫したら勝てました！」の言葉を期待しています。勝利までの過程においては、回り道OK。試行錯誤OK。自分で考えるのは難しいことだが、面白いし、楽しい。だからこそ真剣に取り組めます。自分の幸せを自分で追求する今の時代、自分が何を求め、何を大事にするかを考える習慣を付けることが「生きる力」です。

二回表 人は 自ら育つ 自ら伸びる

二回裏 任せて、信じ、待ち、許す

大人が良かれと思って教えていることであっても、実は子どもは大して聞いていなかったりします。まだ未熟な子どもなら尚更です。タイミングが来れば身につくこともありますから、大人の私たちには、成長することを信じ、成長の邪魔をしないことも必要です。

「教えるリスク」「教えない勇気」「黙って見守る勇気」

そして、仮にうまくいかなかったとしても、「次に活かそうか！」と言えるようになりましょう。

それにより、自分も育ちます。Educationは「教育」ではなく「共育」です。

七回裏 伝えたいことを絞る

監督の重要な仕事の一つはミーティングで話をすること。選手へ伝えたい事は山ほどありますが、練習後は疲れていて頭に入らないですし、毎日言っていることは聞かなくなるものです。

そこで「強調することを決め」四字熟語など短い言葉に思いを込めて伝えるようにしています。大事なのは、話す長さではなく相手に伝わった量です。

お話を聞いて…

小学校教諭でありながら高校野球監督、まさに二刀流の教育者であり、高校生と小学生の父親でもある森林先生。小学生と高校生のそれぞれの良いところを知り尽くした先生のお話はとても説得力があり、いままさに子どもを育てている親として心にとめておきたい内容ばかり。さっそく実践していきたいと思いました。

たくさんの質問が飛び交いました

第71回 PTA 全国研究大会 広島大会

暑い広島の夏、43名で熱く過ごしてきました。

第71回日本PTA全国研究大会広島大会が、「変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！」をメインテーマに、一日目は分科会（広島県内各地）、二日目は全体会（広島県立総合体育館）が行われました。全国各地から多くの参加者が集まり、人と人のつながりを体感しながら多くの学びを得るとともに、会員同士の連携を深め合うことができた二日間でした。

第78回 指定都市PTA 情報交換会 相模原市大会

9月14日（木）15日（金）の二日間、第78回指定都市PTA情報交換会相模原市大会が神奈川県相模原市橋本駅近郊にて開催され、横浜市PTA連絡協議会も東会長他役員で参加してまいりました。当日は全国の日本PTA全国協議会に参加する16の政令指定都市PTA協議会が参加し、一日目は4つの分科会に分かれての討議および意見交換、二日目は全大会にて明星大学の星山麻木教授による記念講演が行われました。

第55回 日本PTA 関東ブロック大会

令和5年10月28日・29日の二日間にかけて、千葉市にて第55回日本PTA関東ブロック大会が開催され、横浜市からはあわせて35名が参加しました。大会のキーワードは「Re：」。コロナを経験した今、PTAのあるべき姿やPTAの持つ繋がりの力を改めて見つめなおす場として開催されました。初日は、このキーワードに従い、それぞれ「Reborn」「Redesign」など、「Re」から始まるタイトルのもと、組織のあり方や情報発信の方法など、一部参加型のものを含め7つの分科会が行われ、二日目の全大会では、和太鼓と書道のパフォーマンスの他、記念講演がありました。

編集後記

さまざまな活動が再開し、各校でも以前のような活動が戻ってきたのではないでしょうか。取材をし、それを記事にすることは難しいですが、広報委員みんなで協力し、興味を持って読んでいただきたいという思いで丁寧に作り上げました。

1人でも多くの方々にご一読いただけたら嬉しいです。